

教養科目（令和6年度入学生用）

科目区分	科目コード	科目名	単位	回数	学年	開講	担当教員	資格		概要										
								教職	食品衛生監視員											
基盤教育群	基礎力養成	60010 基礎ゼミナール	①	15	1	前期	安部 貴洋 井間眞理子 大益 史弘 加藤 守匡 金谷 由希 北林 蒔子 鈴木 美穂 花屋 道子 南 育子													
		60020 キャリアデザイン									①	8	1	前期	後藤 和也					
		地域学									60111 山形の食と歴史	②	15	1	前期	青木・角屋				
		外国語									60210 英語Ⅰ	①	15	1	前期	阿部 隆夫			クラス別	
											英語Ⅱ	①	15	2	後期	太田 裕子				
		情報処理									60230 英会話Ⅰ	①	15	1	後期	ジェンクス,ブライアン	○			
											英会話Ⅱ	1	15	2	後期	ジェンクス,ブライアン	○			
	60310 情報基礎		②	15	1	前期	小池 隆太													
	保健体育	60320 基礎情報処理演習	1	15	1	前期	伊豆田義人	○												
		60330 応用情報処理演習	1	15	1	後期	伊豆田義人	○												
60410 体育理論		①	15	1	前期	加藤 守匡	○													
教養教育群	人間と文化・社会	60420 体育実技Ⅰ	1 } ①	15	1	後期	加藤 守匡	}	①											
		体育実技Ⅱ										1	15	2	前期	加藤 守匡				
		60510 心理学	②	15	1	後期	花屋 道子	○		短大と合同授業 本年度開講せず										
		コミュニケーション論	②	15	2	前期	花屋 道子													
		60530 社会学	2	15	1・2・3・4	前期	中川 恵													
		60540 教育学	2	15	1・2・3・4	前期	安部 貴洋													
		60550 法学（日本国憲法）	2	15	1・2・3・4	後期	堀田 学													
	経営学概論	2	15	1・2・3・4	後期	高浜 快斗														
	異文化理解	2 } ②	15	3・4	前期	村瀬 桃子														
	国際関係論	2					後期	堀田 学												
人間と自然	60611 微生物学	②	15	1	後期	熊田 薫	○		集中											
	60620 自然科学Ⅰ（化学）	2	15	1・2	前期	大益 史弘	○													
	60630 自然科学Ⅱ（生物学）	2	15	1・2	前期	佐塚 正樹	○													
	60640 自然科学演習	1	15	1	後期	大益 史弘														
	60650 統計学	2	15	1	前期	山田 忍														

※ 「○数字」は必修単位、「} ○」は選択必修科目

※ 2年次以降の担当者は令和6年度のものであり、変更になる場合がある

教養科目（令和5年度入学生用）

科目区分	科目コード	科目名	単位	回数	学年	開講	担当教員	資格		摘要	
								教職	食品衛生監視員		
基盤教育群	基礎力養成	基礎ゼミナール	①	15	1	前期	安部 貴洋 井間真理子 大益 史弘 加藤 守匡 金谷 由希 北林 蒔子 鈴木 美徳 沼山 博 南 育子				
		〃									
		〃									
		〃									
		〃									
		〃									
		〃									
		〃									
		キャリアデザイン	①	8	1	前期	後藤 和也				
	地域学		山形の食と歴史	②	15	1	前期	青木・角屋			
外国語	60220	英語Ⅰ	①	15	1	前期	阿部 隆夫			クラス別	
		英語Ⅱ	①	15	2	後期	太田 裕子				
	60240	英会話Ⅰ	①	15	1	後期	ジェンクス,ブライアン	○			
		英会話Ⅱ	1	15	2	後期	ジェンクス,ブライアン	○			
情報処理		情報基礎	②	15	1	前期	小池 隆太				
		基礎情報処理演習	1	15	1	前期	伊豆田義人	○			
		応用情報処理演習	1	15	1	後期	伊豆田義人	○			
保健体育	60430	体育理論	①	15	1	前期	加藤 守匡	○			
		体育実技Ⅰ	1	15	1	後期	加藤 守匡	①			
		体育実技Ⅱ	1	15	2	前期	加藤 守匡				
教養教育群	人間と文化・社会	60520 心理学	②	15	1	後期	沼山 博			短大と合同授業 本年度開講せず	
		60520 コミュニケーション論	②	15	2	前期	花屋 道子				
		60530 社会学	2	15	1・2・3・4	前期	中川 恵				
		60540 教育学	2	15	1・2・3・4	前期	安部 貴洋				
		60550 法学（日本国憲法）	2	15	1・2・3・4	後期	堀田 学	○			
			経営学概論	2	15	1・2・3・4	後期	高浜 快斗			
			異文化理解	2	15	3・4	前期	村瀬 桃子			
			国際関係論	2	15	3・4	後期	堀田 学			
	人間と自然	60620	微生物学	②	15	1	後期	熊田 薫		○	集中
			自然科学Ⅰ（化学）	2	15	1・2	前期	大益 史弘		○	
自然科学Ⅱ（生物学）			2	15	1・2	前期	佐塚 正樹				
自然科学演習			1	15	1	後期	大益 史弘		○		
		統計学	2	15	1	前期	伊豆田義人				

※ 「○数字」は必修単位、「} ○」は選択必修科目

※ 3年次以降の担当者は令和6年度のものであり、変更になる場合がある

教養科目（令和4年度入学生用）

科目区分	科目コード	科目名	単位	回数	学年	開講	担当教員	資格		摘要									
								教職	食品衛生監視員										
基盤教育群	基礎力養成	基礎ゼミナール	①	15	1	前期	安部 貴洋 井間真理子 大益 史弘 加藤 守匡 金谷 由希 北林 蒔子 鈴木 美穂 沼山 博 南 育子												
		キャリアデザイン									①	8	1	前期	後藤 和也				
		地域学										②	15	1	前期	青木・角屋			
		外国語									英語Ⅰ	①	15	1	前期	阿部 隆夫			
											英語Ⅱ	①	15	2	前期	石田 陽子			
											英会話Ⅰ	①	15	1	後期	ジェニングス,ブライアン	○		クラス別
											英会話Ⅱ	1	15	2	後期	ジェニングス,ブライアン	○		
		情報処理									情報基礎	②	15	1	前期	小池 隆太			
	基礎情報処理演習		1	15	1	前期	伊豆田義人	○											
	応用情報処理演習		1	15	1	後期	伊豆田義人	○											
保健体育	体育理論	①	15	1	前期	加藤 守匡	○												
	体育実技Ⅰ	1	15	1	後期	加藤 守匡	} ①												
	体育実技Ⅱ	1	15	2	前期	加藤 守匡													
教養教育群	人間と文化・社会	心理学	②	15	1	後期	沼山 博												
		コミュニケーション論	②	15	2	前期	沼山 博												
		60530 社会学	2	15	1・2・3・4	前期	中川 恵												
		60540 教育学	2	15	1・2・3・4	前期	安部 貴洋												
		60550 法学（日本国憲法）	2	15	1・2・3・4	後期	堀田 学	○		短大と合同授業 本年度開講せず									
		企業論	2	15	1・2・3・4	後期	高浜 快斗												
		60570 異文化理解	2	15	3・4	前期	村瀬 桃子												
		60580 国際関係論	2	15	3・4	後期	堀田 学			短大と合同授業									
	人間と自然	微生物学	②	15	1	後期	熊田 薫		○	集中									
		自然科学Ⅰ（化学）	2	15	1・2	前期	大益 史弘		○										
自然科学Ⅱ（生物学）		2	15	1・2	前期	佐塚 正樹													
自然科学演習		1	15	1	後期	大益 史弘		○											
		統計学	2	15	1	前期	鈴木 久美												

※ 「○数字」は必修単位、「} ○」は選択必修科目

※ 4年次の担当者は令和6年度のものであり、変更になる場合がある

教養科目（令和3年度入学生用）

科目区分	科目コード	科目名	単位	回数	学年	開講	担当教員	資格		摘要
								教職	食品衛生監視員	
基盤教育群	基礎力養成	基礎ゼミナール	①	15	1	前期	安部 貴洋 井間真理子 大益 史弘 加藤 守匡 金谷 由希 北林 蒔子 沼山 博			
		〃								
		〃								
		〃								
		〃								
		〃								
		キャリアデザイン	①	8	1	前期	後藤 和也			
	地域学	山形の食と歴史	②	15	1	前期	青木・角屋			
	外国語	英語Ⅰ	①	15	1	前期	阿部 隆夫			
		英語Ⅱ	①	15	2	前期	石田 陽子			
英会話Ⅰ		①	15	1	後期	ジエニングス, プライソン	○		クラス別	
英会話Ⅱ		1	15	2	後期	ジエニングス, プライソン	○			
情報処理	情報基礎	②	15	1	前期	小池 隆太				
	基礎情報処理演習	1	15	1	前期	伊豆田義人	○			
	応用情報処理演習	1	15	1	後期	伊豆田義人	○			
保健体育	体育理論	①	15	1	前期	加藤 守匡	○			
	体育実技Ⅰ	1	15	1	後期	加藤 守匡	①			
	体育実技Ⅱ	1	15	2	前期	加藤 守匡				
教養教育群	人間と文化・社会	心理学	②	15	1	後期	沼山 博			
		コミュニケーション論	②	15	2	前期	沼山 博			
		60530 社会学	2	15	1・2・3・4	前期	中川 恵			
		60540 教育学	2	15	1・2・3・4	前期	安部 貴洋			
		60550 法学（日本国憲法）	2	15	1・2・3・4	後期	堀田 学	○		短大と合同授業 本年度開講せず
		企業論	2	15	1・2・3・4	後期	高浜 快斗			
		60570 異文化理解	2	15	3・4	前期	村瀬 桃子			
		60580 国際関係論	2	15	3・4	後期	堀田 学			短大と合同授業
人間と自然	微生物学	②	15	1	後期	熊田 薫		○	集中	
	自然科学Ⅰ（化学）	2	15	1・2	前期	大益 史弘		○		
	自然科学Ⅱ（生物学）	2	15	1・2	前期	佐塚 正樹				
	自然科学演習	1	15	1	後期	大益 史弘		○		
	統計学	2	15	1	前期	鈴木 久美				

※ 「○数字」は必修単位、「} ○」は選択必修科目

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
安部・井間・大益・加藤・金谷・北林・鈴木・花屋・南			
基盤教育群	基礎力養成		授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	テーマ：大学での生活や学習に慣れる 到達目標：1) 学科内における人間関係を構築し、生産的に議論できる雰囲気を作る。 2) テーマを設定して、情報収集し、レポート作成することができる。 3) プレゼンテーション資料を作成し、プレゼンテーションすることができる。 4) 学内資源の利用法を理解できる 5) 大学の講義の受け方やノートの取り方、学習の仕方について自分の方針を持てる。 6) 専門を支える教養を高める。		
授業計画	第1回	オリエンテーション	
	第2回	リレーションづくり ゼミでの人間関係を作る	
	第3回	大学の講義とノートテイキング(1)	
	第4回	大学の講義とノートテイキング(2)	
	第5回	研究テーマに即したレポート作成(1) 研究テーマ設定のための情報収集・図書館ツアー	
	第6回	研究テーマに即したレポート作成(2) レポート作成のための情報収集	
	第7回	研究テーマに即したレポート作成(3) レポート作成	
	第8回	研究テーマに即したレポート作成(4) レポート作成と推敲	
	第9回	専門を支える教養に関心を持つ(1) ゲストスピーカーによる講話	
	第10回	専門を支える教養に関心を持つ(2) ゲストスピーカーによる講話	
	第11回	専門を支える教養に関心を持つ(3) ゲストスピーカーによる講話	
	第12回	プレゼンテーション資料の作成(1) プレゼンテーション資料の作成	
	第13回	プレゼンテーション資料の作成(2)	
	第14回	プレゼンテーションの練習	
	第15回	プレゼンテーションとディスカッション	
成績評価・方法	授業への取り組み20%、レポート40%、プレゼンテーション40%		
授業概要	次の①～④を行う。①学生同士・教員の交流を深め、学生の自覚と学習意欲を高める。②少人数クラスによるゼミ形式とし、ノートの取り方、レポートの書き方、図書館の使い方、文献検索の方法等のスタディスキルを習得する。③論理的思考や発表技法を学ぶためプレゼンテーションやディスカッションを行い、コミュニケーション能力を身に付ける。④関連領域のゲストスピーカーによる講話を聴き、専門を支える教養を高めることに関心を持つ。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	課題レポート、プレゼンテーション用の資料の作成を行うこと。講義以外でもゼミ生を中心に、学生同士で積極的にかかわりを持ち、互いに支え合うようにすること。		
教科書	適宜資料を配布する。		
参考文献	学習技術研究会編「知へのステップ」（くろしお出版）		
履修条件	伊豆田義人先生「基礎情報処理演習」を着実に履修し、ワープロやプレゼンテーション資料作成など必要なスキルを身につけておくこと。		
備考	レポートやプレゼンテーション・データの提出締切を守ること。ゼミごとの活動の詳細についてはゼミ担当教員より指示を受けること。新型コロナウイルス対策、ゲストスピーカーの都合等により授業計画に変更が生じる場合があるので、連絡に注意すること。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
後藤 和也			
基盤教育群	基礎力養成		授業形態：講義・演習

授業のテーマ及び到達目標	今後のキャリア形成に有用な諸能力への理解を深める授業です。実社会では、「コミュニケーション能力」と称される汎用的なスキル（ジェネリック・スキル）が求められる傾向にあります。みなさんが管理栄養士として就職した際にも、専門職としてキャリアを築いていくうえで、職場で良好な人間関係を築き上げる等の力は欠かせません。授業をとおして、ジェネリック・スキルについて学び、考えを深めましょう。当授業では「どのような経験や活動が自身のジェネリック・スキルの伸長に関係しているかを言葉や文章で説明できる」ことを到達目標とします。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 他者と交流を図る力（コミュニケーション能力）</p> <p>第3回 やる気や自信を保持する力（自己効力・モチベーション）</p> <p>第4回 チームを支える力（チーム・リーダーシップ）</p> <p>第5回 物事を決断する力（意思決定）</p> <p>第6回 偶然のチャンスを活かす力（キャリアにおける偶然性）</p> <p>第7回 人間関係を広げ、成長する力（メンター・発達のネットワーク）</p> <p>第8回 目標を立てる力（目標設定）</p>
成績評価・方法	授業への貢献度（議論の参加態度やグループ内での役割、授業中の発言・質疑の内容、授業の感想内容の質）30%、最終レポート等の記載内容等70%により評価する
授業概要	社会的・職業的自立に向けて有用なジェネリックスキルを育成するため、内省する時間や他者の意見を聴く時間を頻度高く設けます。授業内の活動に取り組むことで、いわゆるコミュニケーション力を育成しましょう。
実務経験及び授業の内容	人事・採用・人材育成等の実務経験を持つ教員が、その知見を活かし学生におけるキャリアを支援するための授業を行う。
時間外学習	毎回の授業で取り上げる問題について、自分の見方・考え方を整理すること。
教科書	教科書は指定せず、適宜プリントを配布します。
参考文献	
履修条件	
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種感染症等の状況により、授業の実施方法に変更が生じる可能性があります。</li> <li>具体の授業日については初回のガイダンスでお示しします。</li> </ul>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
青木 昭博・角屋 由美子			
基盤教育群	地域学		授業形態：講義
授業のテーマ及び到達目標	<p>1 山形県は大きく4つの地域に分かれ、それぞれ特徴的な食文化が存在する。多彩で豊かな在来作物や伝統野菜、様々な行事に伴う郷土料理など、地域に根ざした食の文化を学ぶとともに、山形県の食生活の現状、並びに地産地消推進についての理解も深める。また、農業体験を通し、農産物を食生活の中に多様に活用できる人材を育てる。</p> <p>2 山形県および米沢市の歴史と文化について、その概要を画像や資料などから学び、地域の特色を理解すると共に、地域に対する興味や愛着心を深める。</p> <p>3 上杉鷹山の藩政改革から、地産地消の取り組みや「かてもの」を紹介し、先人の知恵を学ぶ。</p>		
授業計画	<p>第1回 山形の自然と風土（担当：青木） きてけろくん・校歌と県民歌・庄内と内陸</p> <p>第2回 原始・古代・中世の山形（担当：青木） 縄文の女神・縄文クッキー・山形の古墳と荘園・山形の仏像文化</p> <p>第3回 特色のある山形県の食材と料理（置賜・村山地方）（担当：角屋）</p> <p>第4回 農産物の栽培（担当：角屋） ※天候により入れ替えになる可能性あり</p> <p>第5回 特色のある山形県の食材と料理（庄内・最上地方）（担当：角屋）</p> <p>第6回 他県の郷土料理と食材（グループ発表）①（担当：角屋）</p> <p>第7回 他県の郷土料理と食材（グループ発表）②（担当：角屋）</p> <p>第8回 山形の戦国時代と近世の諸相（担当：青木） 最上義光と伊達政宗・最上川と紅花・出羽三山・奥の細道</p> <p>第9回 直江兼統と城下町米沢（担当：青木） 城下町米沢の構造と特色・旅日記にみる米沢</p> <p>第10回 上杉鷹山と米沢藩の改革（担当：青木） なせばなる・漆の実のみのる国・伝国の詞</p> <p>第11回 山形県の成立と近代山形（担当：青木） 土木県令・東洋のアルカディア・米沢工業高等学校</p> <p>第12回 古代・中世の山形の食文化（担当：角屋）</p> <p>第13回 現代の山形の姿と課題、そして未来（担当：青木） 「つや姫」と「雪若丸」・山形新幹線・少子高齢化</p> <p>第14回 「かてもの」近世に見る食の役割（担当：角屋）</p> <p>第15回 農業体験 収穫をとおして地産地消を学ぶ（担当：角屋）</p>		
成績評価・方法	山形の食（担当角屋）：試験40%、授業への参加度（発言他）10% 山形の歴史（担当青木）：レポート25%、授業への参加度（ミニレポート）25%		
授業概要	山形県の歴史を学び、地域の特性を理解するとともに、人々の食文化が時代により、また地域により、どのように育まれたかを考える。学生自身の出身地などを見直し、比較する意見交換や実際の農業体験を通して、地域の食文化に対する関心を深める。		
実務経験及び授業の内容	（青木）長年、米沢市史編さん室や市立米沢図書館（郷土資料担当）に勤務。山形県の食と歴史では、歴史分野を担当し、写真や表等の多くのスライドを用いた授業を行う。 （角屋）米沢市上杉博物館学芸員として、担当した展覧会、参加した共同研究等から「食」に関わる部分を題材として、講義のほか畑体験やグループ発表などの授業を行う。		
時間外学習	参考文献を参照し、復習して授業内容を定着させる。		
教科書	教科書はなし。適宜資料を配布する。		
参考文献	『「かてもの」をたずねる』高垣順子著 『農と食』山形県検定テキスト 『山形の郷土料理』生活改善実行グループ連絡研究会編 『山形県の歴史散歩』（山川出版社）『代表的日本人』（岩波文庫）		
履修条件			
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
阿部 隆夫			
基盤教育群	外国語		授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	三個の主題に沿って進める。第一は、自然科学関係の英語の文章を効率的に読みこなす練習をすることである。第二は、英語圏を中心に異文化に関する資料を読みながら語彙を増やすことである。第三には、今後日本で起こりうる異文化間の交流に必要なコミュニケーション技術を習うことである。		
授業計画	第1回	BH Unit 1; 異文化 Case 15-16; TOEIC導入 BH導入; 英語における呼称の文化的問題; TOEIC導入	
	第2回	BH Unit 1; TOEIC Part 1 Unit 7 聞き取り練習; TOEIC Part 1, 写真問題攻略方法解説	
	第3回	異文化 Case 17-18; TOEIC Part 2 知らない人と話す; TOEIC Part 2, 応答問題解説	
	第4回	BH Unit 2; TOEIC Part 2 Unit 8 聞き取り練習; TOEIC Part 2 応答問題練習	
	第5回	異文化 Case 19-20; TOEIC Part 3 英語圏でのあいさつとスピーチ; TOEIC Part 3 会話問題解説	
	第6回	BH Unit 3; TOEIC Part 3 Unit 9 聞き取り練習; TOEIC Part 3 会話問題練習	
	第7回	異文化 Case 21-22; TOEIC Part 4 パーティー・会食の英語コミュニケーション文化; TOEIC Part 4 アナウンス問題解説	
	第8回	BH Unit 4; TOEIC Part 4 Unit 10 聞き取り練習; TOEIC Part 4 アナウンス問題解説	
	第9回	異文化 Case 23-24; TOEIC Part 4 贈り物、お礼の英語習慣; TOEIC Part 4 アナウンス問題練習	
	第10回	BH Unit 5; TOEIC Part 5 Unit 11 聞き取り練習; TOEIC Part 5 文法問題攻略方法解説	
	第11回	異文化 Case 25-26; TOEIC Part 5 依頼、電話の英語文化; TOEIC Part 5 文法問題解説	
	第12回	BH Unit 6; TOEIC Part 6 Unit 12 聞き取り問題; TOEIC Part 6 文章完成問題解説	
	第13回	異文化 Case 27-28; TOEIC Part 7 招待する・招待される英語圏の習慣; TOEIC Part 7 読解問題攻略方法	
	第14回	BH Unit 7; TOEIC Part 7 Unit 13 聞き取り練習; TOEIC Part 7 読解問題解説	
	第15回	異文化 Case 29-30; TOEIC Part 7 複雑状況コミュニケーションと単純状況コミュニケーション; TOEIC Part7 読解問題練習	
成績評価・方法	小テスト40%、期末試験40%、提出課題20% 他、TOEIC公式会場テストを受験し一定の点数を取得した場合は努力点として加味する		
授業概要	英語の社会言語文化を題材にしなが、聞く・話す・読む・書くという基本四技能に加え、それを統括する5番目の技能である異文化間コミュニケーション能力を養う。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	隔週回で教室授業の開始時に書き取り試験 (dictation)を実施するので、教科書の本文を音声データを聞きながら正確に音読する練習が必要である。		
教科書	Toshiaki Nishihara, Better Health for Every Day (金星堂2014年)[上記BHと略記]; 阿部隆夫他著『42の事例から考察する異文化間英語コミュニケーション』(開拓社2020年) [または廉価版: タカオ・アベ『ピンときた! 納得の異文化間英語コミュニケーション』(開拓社2012年)] [「異文化」と略記]; 公式TOEIC Listening&Reading 問題集9 (TOEICと略記)		
参考文献			
履修条件			
備考			



開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
太田 裕子			
基盤教育群	外国語		授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	リーディングに加えて、関連するTOPICの動画を視聴したり、ディスカッションをしたりして、英語の運用能力を高めます。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション Self - Introduction</p> <p>第2回 1 Physical Fitness pp6-9</p> <p>第3回 1 Physical Fitness pp6-9</p> <p>第4回 6 Stress pp29-33</p> <p>第5回 6 Stress pp29-33</p> <p>第6回 7 Fast Food: Super Size Me pp34-38</p> <p>第7回 7 Fast Food: Super Size Me pp34-38</p> <p>第8回 15 The Right to Die pp71-75</p> <p>第9回 15 The Right to Die pp71-75</p> <p>第10回 17 Salt, Sugar, Fat pp80-85</p> <p>第11回 17 Salt, Sugar, Fat pp80-85</p> <p>第12回 20. Photoshop Advertising pp96-100</p> <p>第13回 20. Photoshop Advertising pp96-100</p> <p>第14回 21 Are men necessary? pp101-105</p> <p>第15回 21 Are men necessary? pp101-105</p> <p>第16回 試験</p>
成績評価・方法	授業で読んだところの内容理解、文法事項、語彙に関する筆記試験を行います。 提出物も評価の対象とします。 授業参加（アクティビティへの参加など20点）、提出物（30点）、学期末試験（50点）
授業概要	1. 本文を読む前に問題を確認する。 2. CDを使って聞き読み 3. 答え合わせとKey Sentencesの確認 4. Discussion
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	音声を手に入れて、ダイアログや本文を音読する。語彙を書いて覚える。
教科書	Life Topics [Advanced] (2017) 南雲堂 著者 島岡 丘、Jpnathan Berman IDBN 978-4-523-17751-7
参考文献	
履修条件	
備考	Readingの本文の内容を確認した後、repeatingしたり、ペアワークで音読したりして体に叩き込んでいきます。使えそうな表現や語彙は読み方を確認し、書いて覚えましょう。なお、Reading は和訳担当を決めて授業中に発表していただきます。一文ずつ英文を読んでから、訳をします。クラス全体に聞こえるように、はっきり、ゆっくりを心掛けましょう。和訳は紙に書いて発表後に提出しましょう。Discussionした後、自分の考えを英語で、紙にまとめて提出しましょう。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
ジェニングス, ブライアン			
基盤教育群	外国語		授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	このクラスでは、興味深いトピックについて学び、クラスメートとそれについて話し合います。その後、学んだトピックについて2つのプレゼンテーションをしてもらいます。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 オンライントピック 1</p> <p>第3回 オンライントピック 1</p> <p>第4回 オンライントピック 2</p> <p>第5回 オンライントピック 2</p> <p>第6回 トピック 3</p> <p>第7回 プレゼンテーション 1 の準備</p> <p>第8回 プレゼンテーション 1</p> <p>第9回 トピック 4</p> <p>第10回 トピック 4</p> <p>第11回 トピック 5</p> <p>第12回 トピック 5</p> <p>第13回 トピック 6</p> <p>第14回 プレゼンテーション 2 の準備</p> <p>第15回 プレゼンテーション 2</p>
成績評価・方法	プレゼンテーション1: 25%, プレゼンテーション2:25%, 参加:30%, 読解:20%
授業概要	学生は授業の前に配布資料をダウンロードし、その情報を確認します。それからクラスでこれらのフレーズを練習します。情報に関する5つの短いテストがあります。学生は英語での2分間の会話で構成される2つのスピーキングテストがあります。
実務経験及び授業の内容	山形大学での英会話の指導経験を生かし、面白いトピックを使って役に立つ英語のフレーズを授業に取り入れていきます。また、ペアで英語の会話を練習する機会を設けます。
時間外学習	学生は自分の家でクラスのフレーズを練習する必要があります。
教科書	無し。資料を配布します。
参考文献	
履修条件	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	選択
担当教員			
ジェニングス、ブライアン			
基盤教育群	外国語		授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	このクラスでは、興味深いトピックについて学び、クラスメートとそれについて話し合います。その後、学んだトピックについて2つのプレゼンテーションをしてもらいます。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 オンライントピック 1</p> <p>第3回 オンライントピック 1</p> <p>第4回 オンライントピック 2</p> <p>第5回 オンライントピック 2</p> <p>第6回 トピック 3</p> <p>第7回 プレゼンテーション 1 の準備</p> <p>第8回 プレゼンテーション 1</p> <p>第9回 トピック 4</p> <p>第10回 トピック 4</p> <p>第11回 トピック 5</p> <p>第12回 トピック 5</p> <p>第13回 トピック 6</p> <p>第14回 プレゼンテーション 2 の準備</p> <p>第15回 プレゼンテーション 2</p>
成績評価・方法	プレゼンテーション1 25%, プレゼンテーション2: 25%, 参加: 30%, 読解: 20%
授業概要	学生は授業の前に配布資料をダウンロードし、その情報を確認します。それからクラスでこれらのフレーズを練習します。情報に関する5つの短いテストがあります。学生は英語での2分間の会話で構成される2つのスピーキングテストがあります。
実務経験及び授業の内容	山形大学での英会話の指導経験を生かし、面白いトピックを使って役に立つ英語のフレーズを授業に取り入れていきます。また、ペアで英語の会話を練習する機会を設けます。
時間外学習	学生は自分の家でクラスのフレーズを練習する必要があります。
教科書	無し。資料を配布します。
参考文献	
履修条件	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
小池 隆太			
基盤教育群	情報処理		授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	<p>情報学の基礎理論を前提に、現代の情報化社会がどのようなシステムに支えられているのかを知り、さらに情報セキュリティや著作権をはじめとした知的財産権の概念と制度をあわせて理解することで、技術と制度の両側面から現代社会における「情報」の重要性を学ぶことをテーマとします。</p> <p>到達目標としては、まず情報とコミュニケーションの基礎理論を理解できること、次にコンピュータとインターネットの原理と構造を説明・記述できること、さらにデジタル技術をめぐる諸制度について、情報社会での活用と運用における課題を把握し、その解決のために必要な配慮を行うことができるようになること、これら3点を現代における「デジタル・シティズンシップ」のための能力として修得することを目指します。</p>
授業計画	<p>第1回 インTRODクシヨン アナログとデジタル</p> <p>第2回 記号とコミュニケーション</p> <p>第3回 コンピュータと情報システムの歴史</p> <p>第4回 コンピュータの構造</p> <p>第5回 コンピュータとインターフェース</p> <p>第6回 コンピュータと記憶装置</p> <p>第7回 アルゴリズムとプログラミング、ネットワーク</p> <p>第8回 インターネットの歴史と仕組み</p> <p>第9回 移動体通信とソーシャルメディア</p> <p>第10回 情報セキュリティ</p> <p>第11回 個人情報の管理とメディアリテラシー</p> <p>第12回 著作権と著作者人格権</p> <p>第13回 著作権の権利制限と自由利用</p> <p>第14回 知的財産権と肖像権</p> <p>第15回 アクセシビリティと制度</p>
成績評価・方法	課題（授業中に提出）50%、期末レポート50%
授業概要	<p>本講義では、情報化社会に必要な情報処理技術の基礎知識を学び、情報システムの活用と情報の発信に求められる基本的な概念の習得をはかります。具体的には、デジタルデータとコンピュータの構造、情報システムとネットワーク、情報セキュリティ、メディアリテラシー、知的財産権・著作権の保護、個人情報の管理等について学ぶことで、技術的観点と制度的観点の双方から現代社会における情報システムの役割について理解することになります。</p>
実務経験及び授業の内容	<p>第一種情報処理技術者（旧通商産業省）の国家資格を有し、プログラマ/システムエンジニアとしての実務経験があります。その経験を反映したシステムの解説を行います。</p>
時間外学習	<p>私たちが社会生活において活用している各種の情報システムや情報セキュリティ/知的財産権に関する制度について観察・解説してもらう課題を定期的に行います。本学のオンライン学習システムであるMicrosoft Teamsを活用した課題やリアクションペーパーの提出によって、学修内容を深めてもらう予定です。</p>
教科書	資料プリントを適宜配布します。
参考文献	
履修条件	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	選択
担当教員			
伊豆田 義人			
基盤教育群	情報処理		授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	本演習では、情報化社会に生きていくための必須の情報処理の基礎知識および必要不可欠な活用能力を身につける。具体的には、情報システムの使い方やインターネットによる情報収集、メールシステムの利用のほか、ブラインドタッチの基本や文書作成ソフト（ワード）、データ活用（表計算ソフト・エクセル）とプレゼンテーションソフト（パワーポイント）の活用方法を習得する。
授業計画	<p>第1回 学内情報システムの紹介と機器の使い方。個人Eメール等のネットワークシステムの設定等 ※この授業計画は予定なので授業の進み具合等により若干変更する場合がある。</p> <p>第2回 ブラインドタッチの基本的なスキル取得。キーボードのホームポジション、上・下段の練習</p> <p>第3回 文書作成－その1。ソフトの基本操作やデータの入力と書式の設定、文字のみの文書の作成</p> <p>第4回 文書作成－その2。図形文書の基本的な事項。図形文書作成と編集。パンフレットの作成</p> <p>第5回 文書作成－その3。表の作成・編集。文中の表、および表としてのページ。表を用いた文書</p> <p>第6回 文書作成－その4。本と論文の原型。見出しや図表式の目次や索引、脚注等を有する文書</p> <p>第7回 文書作成－その5。ビジネス文書の基本的な事項。種々のビジネス文書の作成、編集、管理</p> <p>第8回 データ活用－その1。ソフトの基本操作。データの入力、表の作成や編集、書式の設定</p> <p>第9回 データ活用－その2。計算式の挿入。四則演算や合計、平均などの基本的な数式の使い方</p> <p>第10回 データ活用－その3。情報の参照。表間やファイル間のデータのやり取りと参照と処理</p> <p>第11回 データ活用－その4。集計。大量の数字データに対する一元的なデータの集計やクロス集計</p> <p>第12回 データ活用－その5。グラフによる情報の可視化。グラフの作成、編集と書式の設定</p> <p>第13回 データ活用－その6。総合問題</p> <p>第14回 プレゼンテーション。ソフトの基本的な操作やスライドの作成・編集・設定を学習</p> <p>第15回 画像処理ソフトの基本。画像の加工、補正、編集、合成等について学習</p>
成績評価・方法	<p>入力課題：25%。※未提出または未完成課題が一つ以上の場合、『入力課題=25%満点中0%』</p> <p>授業課題：28%。まとめの課題：12%。期末課題：35%。</p> <p>ただし、減点の対象：</p> <p>(1) 公欠以外の欠席や無断退室等</p> <p>(2) 遅刻（出欠確認後）</p> <p>(3) 携帯電話等の無許可使用や授業とは関係のない活動</p> <p>授業の進捗状況などにより評価方法が変更となる場合もある</p>
授業概要	授業でのタイピング訓練は最初の2回ほどのみで、それ以降は各自で放課後等の時間に与えられた長文を入力して宿題を提出する。実践的な問題を解きながら文書作成ソフトおよび表計算ソフトの活用方法を学習する。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	本科目では、1.5時間の事前学習、3時間の事後学習を前提として各授業回の内容を構成している。よって、合計15回における事前事後学習の合計時間は67.5時間としている。ただし、この科目では社会で求められている様々なスキルの習得を目的としているのでこの合計時間は最低時間数である。
教科書	指定しない（授業中に適宜資料を配布する）。その都度、授業内容に適した参考書を指定する。
参考文献	初回に紹介する。
履修条件	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	選択
担当教員			
伊豆田 義人			
基盤教育群	情報処理		授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	本演習では、統計学に基づくデータ分析の方法について学習する。統計分析ソフトを活用しながら確率論と統計検定について学ぶ。到達目標は情報の客観的に分析することでデータの処理および読み解く力を身につけることである。		
授業計画	第1回	ガイダンス、ソフト環境の整備 ※この授業計画は予定なので授業の進み具合等により若干変更する場合がある。	
	第2回	確率論－基本	
	第3回	確率論－確率変数	
	第4回	確率分布・その1	
	第5回	確率分布・その2	
	第6回	統計学の基本・統計量・ヒストグラム等	
	第7回	検定1：F-検定（等分散の検定）、t-検定（平均値の検定）－その1	
	第8回	検定2：t-検定－その2	
	第9回	検定2：t-検定－その3	
	第10回	検定2：t-検定－その4	
	第11回	検定3：ANOVA（分散分析法・多群の平均値の検定）－その1	
	第12回	検定3：ANOVA（分散分析法・多群の平均値の検定）－その2	
	第13回	検定3：ANOVA（分散分析法・多群の平均値の検定）－その3	
	第14回	検定3：ANOVA（分散分析法・多群の平均値の検定）－その4	
	第15回	検定4：X <sup>2</sup> 適合度検定（比率の検定）、その他の検定	
成績評価・方法	授業課題：40%。期末課題：40%。平常点：20% ただし、減点の対象： (1) 公欠以外の欠席や無断退室等 (2) 遅刻（出欠確認後） (3) 携帯電話等の無許可使用や授業とは関係のない活動 授業の進捗状況などにより評価方法が変更となる場合もある		
授業概要	毎回、事前学習用の課題等を与えるので、指示に従って予習と復習をする。授業では概説を行った後にソフトを使って課題を作成しながら、学習内容への理解を深める。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	本科目では、2時間の事前学習、2.5時間の事後学習を前提として各授業回の内容を構成している。よって、合計15回における事前事後学習の合計時間は67.5時間としている。ただし、今後の学習等でも必要になるスキルなので、この合計時間は最低時間数である。		
教科書	伊豆田義人『（文理融合型学習）推測統計学入門 座学とR演習』ISBN978-4-8020-8356-0, ¥2,200, amazon限定販売		
参考文献	初回に紹介する。		
履修条件	(1) 実践的に確率論と統計検定を学習したいという気持ち、または意欲を有すること。 (2) 受講期間中にパソコンと仲良くする、あるいはその努力をすること。		
備考			

講義科目名称： 体育理論 (60410)

授業コード： 60410

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
加藤 守匡			
基盤教育群	保健体育		授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	体力の概念や運動への意思・意欲、日常生活における活動やスポーツが身体の発育や身体機能の維持・増進に与える役割を理解する。
授業計画	<p>第1回 日常の身体活動量、運動不足</p> <p>第2回 体力の構成要素、体力評価の方法</p> <p>第3回 発育発達と体力</p> <p>第4回 加齢と体力</p> <p>第5回 健康と体力</p> <p>第6回 各種運動におけるエネルギー供給</p> <p>第7回 運動前の準備と確認事項</p> <p>第8回 運動トレーニングに適切な運動負荷</p> <p>第9回 健康増進のための取り組み</p> <p>第10回 肥満、体重調節と運動</p> <p>第11回 疲労と体力</p> <p>第12回 軽運動及びストレッチング</p> <p>第13回 運動とメンタルヘルス</p> <p>第14回 学生生活と運動量、健康との関連</p> <p>第15回 生涯スポーツと健康</p>
成績評価・方法	テスト40%、レポート40%、態度（理由、報告のない欠席、積極性等）20%
授業概要	日常生活の活動やスポーツと体力・健康との関わりを学習し生涯に渡り活動的なライフスタイル構築の意義を学習する。
実務経験及び授業の内容	自治体での健康推進計画(米沢市、長井市)や介護保険運営協議会(米沢市)、認知症施策推進行動計画(山形県)、様々な自治体での運動教室やスポーツ指導、山形県スポーツ医科学推進会議委員、山形県トレーナー協会理事などでの経験を生かし体育理論の授業を行う。
時間外学習	授業を踏まえて資料等を読み直す。毎回の授業やノートやメモを整理する。
教科書	資料を適宜配布します。
参考文献	
履修条件	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	選択必修
担当教員			
加藤 守匡			
基盤教育群	保健体育		授業形態：実習

授業のテーマ及び到達目標	実技を通じて、自ら実践していく能力を習得する。また、学生間のコミュニケーションの活性化やスポーツに親しむ態度を学習し運動を通して健康の維持増進を理解する。
授業計画	<p>第1回 ストレッチングと有酸素運動（ウォーキング速度の設定）</p> <p>第2回 ストレッチングと有酸素運動（個人毎に設定した速度で ウォーキング）</p> <p>第3回 ストレッチングと有酸素運動（ウォーキングとジョギング）</p> <p>第4回 音楽に合わせた全身運動（動きの確認と低強度運動）</p> <p>第5回 バランスボール、縄跳びを用いた運動（個人で行う運動）</p> <p>第6回 バランスボール、縄跳びを用いた運動（グループで行う運動）</p> <p>第7回 バランスボール、縄跳びを用いた運動（グループで行う運動）</p> <p>第8回 自重負荷を用いた筋力トレーニング</p> <p>第9回 トレッドミル装置を用いた有酸素運動（ウォーキング速度の設定）</p> <p>第10回 トレッドミル装置を用いた有酸素運動（個人毎に設定した 速度でウォーキング）</p> <p>第11回 トレッドミル装置を用いた有酸素運動（ウォーキングと ジョギング）</p> <p>第12回 自転車エルゴメーターを用いた有酸素運動（運動負荷設定）</p> <p>第13回 自転車エルゴメーターを用いた有酸素運動（個人毎に設定した負荷で運動）</p> <p>第14回 器具を使った筋力トレーニング（負荷調整の習得）</p> <p>第15回 器具を使った筋力トレーニング（個人毎に設定し負荷で運動）</p>
成績評価・方法	レポート：50%、態度（理由、報告のない欠席、途中入退室等）：50%
授業概要	有酸素運動や筋力トレーニング、ストレッチングなどのフィットネストレーニングの技術を習得していく。講義期間を通して、自らの体調チェックや体力レベルを維持・増進したりできる手段を身につける。
実務経験及び授業の内容	様々な自治体での運動教室やスポーツ指導、山形県スポーツ医科学推進会議委員、山形県トレーナー協会理事などでの経験を生かし体育実技 I の授業を行う。
時間外学習	自分ができない技術やグループでの打ち合わせが必要であれば適宜行う。
教科書	必要な資料は授業時に配布する。
参考文献	
履修条件	
備考	



開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	選択必修
担当教員			
加藤 守匡			
基盤教育群	保健体育		授業形態：実習

授業のテーマ及び到達目標	球技やラケット競技などの個人スポーツ、チームスポーツ、ニュースポーツなど様々なスポーツを行う。各種目の最初では、ルール説明などを行い種目毎の特性を理解する。また、練習やゲームなどを通して身体を動かすことの楽しさやこれまでに経験したことのないスポーツについて学習する。
授業計画	<p>第1回 ソフトバレーボール（種目の理解と練習及び試合）</p> <p>第2回 ソフトバレーボール（チームの中で連携した動きを習得し試合での応用を目指す）</p> <p>第3回 ソフトバレーボール（複数のチームを作り試合）</p> <p>第4回 卓球（基本的技能の習得）</p> <p>第5回 卓球（複数の対戦相手を設定し試合）</p> <p>第6回 バドミントン、テニス（基本的技能の習得）</p> <p>第7回 バドミントン、テニス（複数の対戦相手を設定し試合）</p> <p>第8回 ソフトボール（基本的技能の習得）</p> <p>第9回 ソフトボール（複数の対戦相手を設定し試合）</p> <p>第10回 フットサル（種目の理解と練習及び試合）</p> <p>第11回 フットサル（チームの中で連携した動きを習得し試合での応用を目指す）</p> <p>第12回 フットサル（複数のチームを作り試合）</p> <p>第13回 バasketボール（種目の理解と練習及び試合）</p> <p>第14回 バasketボール（チームの中で連携した動きを習得し試合での応用を目指す）</p> <p>第15回 バasketボール（複数のチームを作り試合）</p>
成績評価・方法	レポート：50%、態度（理由、報告のない欠席、積極性等）：50%
授業概要	球技やラケット競技などの個人スポーツ、チームスポーツ、ニュースポーツなど様々なスポーツを行う。各種目の最初では、ルール説明などを行い種目毎の特性を理解する。また、練習やゲームなどを通して身体を動かすことの楽しさやこれまでに経験したことのないスポーツについて学習する。
実務経験及び授業の内容	様々な自治体での運動教室やスポーツ指導、山形県スポーツ医科学推進会議委員、山形県トレーナー協会理事などでの経験を生かし体育実技Ⅱの授業を行う。
時間外学習	自分ができない技術やグループでの打ち合わせが必要であれば適宜行う。
教科書	必要な資料は授業時に配布する。
参考文献	
履修条件	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	必修
担当教員			
花屋 道子			
教養教育群	人間と文化・社会		授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	<p>テーマ：心理学入門</p> <p>到達目標：</p> <p>1) 心理学を学問として成り立たせている考え方や方法を理解し、解説できる。</p> <p>2) 感覚・知覚、認知に関する心の働き、集団に属することによって生じる心の働きを理解し、解説できる。</p> <p>3) 心理学の基本的事項を人間のさまざまな活動に当てはめて考察し、論じることができる。</p>
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション：心理学とは</p> <p>第2回 心理学の特徴①—心理学の歴史—</p> <p>第3回 心理学の特徴②—心理学の研究方法—</p> <p>第4回 感覚①—視覚—</p> <p>第5回 感覚②—聴覚—</p> <p>第6回 知覚①—図形知覚—</p> <p>第7回 知覚②—奥行き知覚・運動視—</p> <p>第8回 記憶—記憶の種類・記憶の特性—</p> <p>第9回 認知—推論・判断—</p> <p>第10回 感情—感情の働き・生起メカニズム—</p> <p>第11回 社会①—状況の力—</p> <p>第12回 社会②—社会的現実の構築—</p> <p>第13回 パーソナリティ①—性格検査と心理テスト—</p> <p>第14回 パーソナリティ②—自分について知りたいところ—</p> <p>第15回 まとめと試験</p>
成績評価・方法	期末試験60%、授業への取り組み（小レポート等）40%
授業概要	人間の理解に必要な心理学的知識について概説する。人間が外界の情報を処理する仕組みやその特徴について解説するとともに、社会的な存在としての人間について考察する。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	配布資料を用いて、予習・復習すること。
教科書	教科書は使用せず、講義資料を配布する。
参考文献	参考文献は適宜紹介する。
履修条件	
備考	授業の進度によって、授業計画が変更になる場合があります。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	必修
担当教員			
花屋 道子			
教養教育群	人間と文化・社会		授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	<p>テーマ：コミュニケーションに関する心理学的知見に触れながら、自らのコミュニケーションを振り返る到達目標：</p> <p>1) 人間のコミュニケーションの特徴や傾向について解説できる。  2) 人間関係が構築されるメカニズムについて、心理学の観点から解説できる。  3) 言語的コミュニケーションの留意点と、非言語的コミュニケーションの果たす役割について解説できる。  4) 「差異」の観点から異文化との交流の意味について考察できる。</p>
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 人間のコミュニケーションの特徴と傾向①—関係構築のメカニズム—</p> <p>第3回 人間のコミュニケーションの特徴と傾向②—初対面と第一印象—</p> <p>第4回 人間のコミュニケーションの特徴と傾向③—印象管理と自己呈示—</p> <p>第5回 人間のコミュニケーションの特徴と傾向④—自己理解と自己開示—</p> <p>第6回 言語的コミュニケーションにおける留意点①</p> <p>第7回 言語的コミュニケーションにおける留意点②</p> <p>第8回 非言語的コミュニケーションの特徴①</p> <p>第9回 非言語的コミュニケーションの特徴②</p> <p>第10回 コミュニケーションに関する自己理解の促進①—自己状態—</p> <p>第11回 コミュニケーションに関する自己理解の促進②—交流パターン分析—</p> <p>第12回 コミュニケーションに関する自己理解の促進③—グループプロセスと個人の体験—</p> <p>第13回 コミュニケーションに関する自己理解の促進④—グループの成長とリーダーシップ—</p> <p>第14回 コミュニケーションに関する自己理解の促進⑤—非意識のバイアス—</p> <p>第15回 まとめとレポート試験</p>
成績評価・方法	レポート試験60%、授業への取り組み（コメントペーパー等）40%
授業概要	人間とかかわる際に必要なコミュニケーションに関する基本的知識について、主として心理学的知見を通して理解する。取り上げる内容は、①人間のコミュニケーションの特徴と傾向、②言語的コミュニケーションにおける留意点、③非言語的コミュニケーションの特徴、④コミュニケーションに関する自己理解の促進、の4項目である。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	配布された資料を用いて、復習を行うこと。
教科書	教科書は使用せず、講義資料を配布する。
参考文献	参考文献は適宜紹介する。
履修条件	
備考	講義の中で実際に人とかわる場面があるので、その点に留意して履修すること。授業の進度によって、授業計画が変更になる場合があります。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2・3・4	2	選択
担当教員			
中川 恵			
教養教育群	人間と文化・社会		授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	社会学の基礎的な用語と社会の見方を理解できる。 論文・書籍を自ら探し、内容を十分に理解して説明できる。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス（学習目標と方針の共有／Teamsの基本動作確認／関心の所在）</p> <p>第2回 【読解】 農業および食料産業の担い手像</p> <p>第3回 【文献紹介】 農業および食料産業の担い手像</p> <p>第4回 【読解】 協同組合としての日本の農協</p> <p>第5回 【文献紹介】 協同組合としての日本の農協</p> <p>第6回 【読解】 食料消費の変化とフードシステム</p> <p>第7回 【文献紹介】 食料消費の変化とフードシステム</p> <p>第8回 【読解】 農業の展開と環境・資源問題</p> <p>第9回 【文献紹介】 農業の展開と環境・資源問題</p> <p>第10回 【読解】 身近な環境を守るくふう</p> <p>第11回 【文献紹介】 身近な環境を守るくふう</p> <p>第12回 【読解】 環境を守るための制度や政策</p> <p>第13回 【文献紹介】 環境を守るための制度や政策</p> <p>第14回 重要用語の確認</p> <p>第15回 文献紹介—論文・専門書編—</p>
成績評価・方法	レポート：60%、小テスト（各回の学習内容）：40%
授業概要	テキスト内容に沿ってグループワークの手法で理解を深めて意見交換をします。 論文等の要約文を作成します。 関連する話題や自分が関心をもった事象について、記録と簡単なレビューを残しておくことをおすすめします。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	60分程度 例) テキストの該当箇所を事前に読み、理解できなかった箇所について質問をリストアップする。 例) 関連するテーマからさらに関心をもった事柄について「調べ学習のテーマ」として提案できるように準備する。 例) 講義内に決めたテーマに沿って情報収集し、レポートを作成する。
教科書	龍谷大学農学部食糧農業システム学科編、2016、『食と農の教室② 食・農・環境の新時代：課題解決の鍵を学ぶ』昭和堂 ISBN 978-4-8122-1544-9
参考文献	・篠澤和久・松浦明宏・信太光郎・文景楠、2020、『はじめての論理学—伝わるロジカル・ライティング入門』有斐閣ミネルヴァ（定価 1,980円）ISBN 978-4-641-15081-2 ・宮内泰介・上田昌文、2020、『実践 自分で調べる技術』岩波新書（定価968円）ISBN 978-4-004-31853-8
履修条件	
備考	・この講義では毎回40分のグループワークを予定しています。配慮が必要な場合はご相談ください。 ・課題データ：本学のオンライン学習システムであるMicrosoft Teamsを活用して課題や質問の提出をおこないます。ガイダンスにて利用方法を確認してください。

	<ul style="list-style-type: none"><li>・出席：出席状況は各回の講義内にて確認します。公欠の扱いは内規に準じます。この講義では就職・編入試験関連の欠席は公欠に含まれません</li><li>・発表：講義内にて用語理解や参照した論文・書籍について、講義内に発表を求める場合があります。その場合、事前に日程と内容を告知します。</li><li>・講義データ：講義内容の一部はTeamsにてアーカイブ保存することがあります。講義最終日まで視聴可能とし、以後は予告なく削除します。</li><li>・計画の変更：授業計画に示したテーマと進度は、受講生の理解度合いや関心によって若干変更することがあります。</li></ul>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2・3・4	2	選択
担当教員			
安部 貴洋			
教養教育群	人間と文化・社会		授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	<p>テーマ：教育に関する基本的概念、教育史・教育思想、現代の教育</p> <p>到達目標：</p> <p>(1)教育に関する基本的概念を説明できる。</p> <p>(2)教育思想とその歴史的展開を説明できる。</p> <p>(3)現代の教育制度・カリキュラム・教育評価等を説明できる。</p> <p>(4)現代の教育課題と課題に対する自分の考えを述べることができるようになる。</p>
授業計画	<p>第1回 授業概要と授業計画 教育学とは何か</p> <p>第2回 教育と子ども 教育の概念と近代的孩子観の誕生とその変遷</p> <p>第3回 学校とは何か 学校の起源、近代学校の成立とその特徴</p> <p>第4回 教育の思想と歴史①近代以前 ソクラテス、プラトンなど</p> <p>第5回 教育の思想と歴史②近代以降 ルソー、ペスタロッチ、デューイなど</p> <p>第6回 教育の思想と歴史③日本における教育思想 幕末、戦前の教育とその歴史的展開</p> <p>第7回 学ぶということ 一斉授業の起源とその歴史的展開、「学び」の現在</p> <p>第8回 教育の制度 日本の教育制度とその歴史的展開、学校系統図</p> <p>第9回 教育課程 カリキュラムの定義、子どもの生活とカリキュラム</p> <p>第10回 教育評価 教育評価の定義、教育評価の歴史的展開と近年の動向</p> <p>第11回 特別支援教育 特別支援教育の理念と歴史</p> <p>第12回 現代教育の課題① いじめ、不登校、自殺等</p> <p>第13回 現代教育の課題② 子ども虐待、体罰等</p> <p>第14回 諸外国の実践 シュタイナー、レッジョ・エミリアなど</p> <p>第15回 理解の確認と総括</p> <p>定期試験</p>
成績評価・方法	定期試験(40%)、レポート(30%)、授業内提出物(30%)
授業概要	<p>教育学は「教育に関する基本的概念」「教育史と教育思想」「現代の教育」からなる。「教育に関する基本的概念」では「教育とは何か」「子どもとは何か」等の問いを中心に教育に関する基本的な概念を理解する[第2回、第3回]。「教育史と教育思想」ではソクラテスやプラトン等の教育思想とその歴史的展開を理解する[第4回～第7回]。「現代の教育」では現代日本における教育制度・カリキュラム・教育評価等を理解し、「いじめ」や不登校といった教育課題に対する様々な考えを知り自分の考えをまとめる[第8回～第14回]。</p> <p>授業は「講義」「グループワーク」「感想等の記入」等からなる。グループワークによって授業内容を確認するとともに、教育に関する多様な意見にふれ、自らの考えを深める。また、授業毎に感想等を記入する。(提出された感想等にはコメントを付し返却するとともに、授業で紹介し学びを深めるための教材とする。)</p>
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	授業前に前回の授業内容を確認するとともにシラバスを参考に授業内容を把握する。授業後は授業内容の確認、授業時の疑問等の解消に努めるとともに、授業で学んだことを映画や小説等の様々なメディアで確認する。
教科書	使用しない。適宜、授業資料を配布する。
参考文献	田中智志・今井康雄編『キーワード 現代の教育学』（東京大学出版会、2009年） 木村元・小玉重夫・船橋一男〔著〕『教育学をつかむ』（有斐閣、2009年）

	教育思想史学会〔編〕『教育思想事典 増補改訂版』(勁草書房、2000年) 教育哲学会〔編〕『教育哲学事典』(丸善出版、2023年) 広田照幸『学校はなぜ退屈でなぜ大切なのか』(ちくまプリマー新書、2022年)
履修条件	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2・3・4	2	選択
担当教員			
堀田 学			
教養教育群	人間と文化・社会		授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	<p>〈授業のテーマ〉 日本国憲法は、人権と統治に分かれます。人権では、「表現の自由」や「社会権」などの問題に関連し、統治では国会や内閣、裁判所がその対象となります。憲法は遠い存在のように思えますが、実は身近な事象に関連するものでもあります。この講義では、日本国憲法の全体像をとらえ、自ら考え、答えを導けるようになることをめざします。</p> <p>〈到達目標〉 1. 日本国憲法の構造を理解する。 2. 憲法の規定に則って統治機構が動いていることを理解する。 3. 人権概念を理解する。</p>
授業計画	<p>第1回 憲法の基礎</p> <p>第2回 参政権</p> <p>第3回 国会</p> <p>第4回 内閣</p> <p>第5回 裁判所</p> <p>第6回 象徴天皇制</p> <p>第7回 平和主義</p> <p>第8回 人権総論 1（人権の理念と歴史）</p> <p>第9回 人権総論 2（人権の享有主体性）</p> <p>第10回 信教の自由と政教分離</p> <p>第11回 表現の自由</p> <p>第12回 経済的自由</p> <p>第13回 人身の自由</p> <p>第14回 社会権</p> <p>第15回 幸福追求権</p>
成績評価・方法	期末試験(90%)、DVD視聴の感想・意見(10%)
授業概要	日本国憲法は、最高法規であるため様々な法律にもその理念が活かされています。日本国憲法は、身近な生活にもその理念は活かされています。この授業では、日本国憲法の意義と課題について考えていきます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	配布したレジュメ等を授業が終わってから見直し、知識の定着を図ること。また、新聞やニュースを毎日チェックし、社会の動きに敏感になること。
教科書	駒村圭吾編『プレステップ憲法(第3版)』弘文堂、2021年 1980円 ISBN 9784335001536
参考文献	
履修条件	
備考	



開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3・4	2	選択必修
担当教員			
村瀬 桃子			
教養教育群	人間と文化・社会		授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	この授業の目的は、自分と異なる文化を持つ人たちと比較するため、まず①各自の生まれた地域の文化について再確認することである。その上で、②異なる文化・価値観をもつ他者と、共生するためには何が大切なのかを考えたい。		
授業計画	第1回	オリエンテーション 15回の授業内容や、中間発表(生まれ育った地域の文化の紹介)と最終発表(受講者が関心をもって いることに関連する新聞記事を選び、要約し、自身の見解を述べる)についての説明を行う。	
	第2回	日本の中の異文化(1)ある小学校では… 日本にいる外国ルーツの子どもたちが抱える様々な問題について知る。	
	第3回	日本の中の異文化(2)ある朝鮮学校では… 日本にルーツを持たない子どもたちの中には、朝鮮半島にルーツを持つ子どもも多い。朝鮮学校に通う子どもたちの日常から、どのような問題があるか知る。	
	第4回	アイヌ・沖縄 日本にも、本土と異なる文化を持つ人たちがいる。アイヌの人たちや沖縄の人たちが抱える問題を知る。	
	第5回	日本における性的マイノリティの問題① 外国ルーツの子どもたちも、アイヌや沖縄も、「少数者」ゆえの問題という側面がある。多数派の人たちが見ている世の中と、少数派である人たちが見ている世の中は、見え方が違う。性的少数者の視点を通して、今の社会の問題を考える。日本における性的マイノリティの問題は何かを知る。また、中間発表①を行う。	
	第6回	日本における性的マイノリティの問題② 性同一性障害であり身体障がいでもある(ダブルマイノリティー)方のドキュメンタリーを通して、少数派の中の少数派の問題を知る。また、中間発表②を行う。	
	第7回	カナダの多文化主義の教育 カナダは多文化主義教育を積極的に行っている。今まで見てきた日本の状況と比較する。また、中間発表③を行う。	
	第8回	タイの性的マイノリティ タイのある学校における性的マイノリティの生徒への取り組みを知る。また、中間発表④を行う。	
	第9回	女性の問題① マララ・ユスフザイさんらの活動等を通して、過酷な状況にある女性の現状を知り、これら女性に対する支援や自立への取り組みについて知る。また、中間発表⑤を行う。	
	第10回	女性の問題② パキスタン等の国や地域の一部に残っている「名誉殺人」の問題を中心に、女性の人権問題について知る。また、中間発表⑥を行う。	
	第11回	女性の問題③ 主にアフリカ大陸の女性たちの問題(女性性器切除)を知る。	
	第12回	ジェンダー今昔 近代以降、日本では「子育ては母親がするもの」という考え方が広まるが、それ以前の江戸時代はどうだったのか。歴史をさかのぼってみていくと、同じ日本でも全く異なった文化や考え方があったことを知る。	
	第13回	発表① 今までで興味をもった内容や、新たに疑問に思ったことなどに近い内容の新聞記事を選び、パワーポイントで発表する(個人発表)。	
	第14回	発表② 今までで興味をもった内容や、新たに疑問に思ったことなどに近い内容の新聞記事を選び、パワーポイントで発表する(個人発表)。	
	第15回	発表③ 今までで興味をもった内容や、新たに疑問に思ったことなどに近い内容の新聞記事を選び、パワーポイントで発表する(個人発表)。	
成績評価・方法	発表(2回分で50%)、毎回の感想(30%)、レポート(20%)で評価する。		
授業概要	異なる文化を持つ者の「生の声」をなるべく聞くため、ほぼ毎回ドキュメンタリー番組等の映像資料を用いる。また「異文化理解」とは何かを考えるため、発表を2回行う(なお、授業計画の第5～10回の半分の時間は個人発表にあて、第13～15回は発表の時間とする。)		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	自分の生まれ育った地域の文化について、調べておく。また、国内外の「異文化」について、日頃から新聞等で関心を持って見聞きすること。		
教科書	教科書は使用しない。		
参考文献	参考文献等は、その都度紹介する。		

講義科目名称：国際関係論（60580）

授業コード：60580

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3・4	2	選択必修
担当教員			
堀田 学			
教養教育群	人間と文化・社会		授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	<p>〈授業のテーマ〉 この講義では、政治・経済・社会など多面的な側面から世界で起こっている様々な事象を理解し、考察できるようになることをめざします。</p> <p>〈到達目標〉 1. 国際関係論の理論を理解する。 2. グローバルな課題を理解する。 3. 国際問題を理解する。</p>
授業計画	<p>第1回 国際関係論とは何か</p> <p>第2回 20世紀の国際関係 1（2つの世界大戦と国際関係）</p> <p>第3回 20世紀の国際関係 2（冷戦時代の国際関係）</p> <p>第4回 20世紀の国際関係 3（ポスト冷戦時代の国際関係）</p> <p>第5回 現代の国際関係(9・11以降の国際関係)</p> <p>第6回 国際関係理論 1（リアリズム）</p> <p>第7回 国際関係理論 2（リベラリズム）</p> <p>第8回 国際機関</p> <p>第9回 欧州統合</p> <p>第10回 民族紛争・宗教対立 1（中東）</p> <p>第11回 民族紛争・宗教対立 2（中東）</p> <p>第12回 民族紛争・宗教対立 3（ヨーロッパ）</p> <p>第13回 安全保障 1（軍事）</p> <p>第14回 安全保障 2（食糧・環境）</p> <p>第15回 これからの国際関係</p>
成績評価・方法	期末試験(70%)、DVD視聴の感想・意見(30%)
授業概要	現代の国際社会は、グローバル化が進行する一方で、反グローバル化の動きやポピュリズムの台頭なども世界各地で起こっています。この授業では多角的な視座から世界を見ることができるよう知識を得ることを目標とします。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	新聞やニュースを毎日チェックし、国際問題に関する知識を深め、関心を持ってください。
教科書	
参考文献	佐渡友哲・信夫隆司編『国際関係論(第3版)』弘文堂、2018年 村田晃嗣ほか『国際政治学をつかむ(第3版)』有斐閣、2023年 小原雅博『大学4年間の国際政治学が10時間でざっと学べる』KADOKAWA、2021年
履修条件	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期（集中）	1	2	必修
担当教員			
熊田 薫			
教養教育群	人間と自然		授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	生物学および進化の視点から微生物を理解する。次に食との関わりにおいて微生物を理解する。すなわち、発酵食品など有用な微生物、感染症や食中毒など有害な微生物について理解することを目指す。また、微生物性食中毒など食品衛生学で学んだ知識の微生物学的意義を理解する。		
授業計画	第1回	地球史における生命の起源と微生物について考える	
	第2回	微生物研究の歴史 微生物の発見から今日に至る微生物研究の歴史について考える	
	第3回	微生物の分類 真正細菌、古細菌、真菌、原生動物、ウイルスなどについて分類学上の位置	
	第4回	真正細菌と古細菌 その進化と分類学上の位置および真核生物のとの関係	
	第5回	真菌の種類と分類、原生動物の特徴と分類 いわゆるカビ、コウボおよびキノコの分類と生態	
	第6回	感染症法、新興感染症	
	第7回	ウイルスとはなにか ウイルスの構造、遺伝子、宿主、増殖の特性等	
	第8回	微生物の生態 微生物の多様な生息領域、環境および他の生物との関連	
	第9回	地球環境と微生物 光合成微生物による酸素の産生と地球環境の変動および他の生物との関連	
	第10回	細菌と食品、疾病 細菌を利用した発酵食品の概論および細菌による疾病概論（食中毒を含む）	
	第11回	真菌と食品、疾病 真菌を利用した発酵食品の概論および真菌による疾病概論	
	第12回	ウイルスと疾病 ウイルスによる疾病と特徴	
	第13回	トピックスⅠ RNAワールド、covid-19、進化生物学におけるRNAの役割について	
	第14回	トピックスⅡ 納豆を作る細菌（枯草菌）の特徴と納豆の特徴について	
	第15回	まとめ：全体のまとめおよび微生物に関するその時々話題を取り上げ、微生物学の見地から考える	
成績評価・方法	試験（100%）		
授業概要	生命の起源と微生物、一般微生物学、発酵食品と微生物、および感染症・食中毒と微生物をテーマとして全体を構成する。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	必要に応じ基礎的な学習（高校の生物・科学）を復習すること。		
教科書	新版改訂 微生物と免疫 林修著 建帛社 ISBN 978-4-7679-0685-0		
参考文献	ブラック微生物学第3版(原書8版)、林英生他訳 ISBN 978-4-621-08813-5		
履修条件			
備考			

講義科目名称：自然科学 I（化学）（60620）

授業コード：60620

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
大益 史弘			
教養教育群	人間と自然		授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	原子、分子、電子レベルの世界を学習し、物質の構造・性質について理解し、その上で物質同士の相互作用に関わる化学結合、化学変化（化学反応）のメカニズムについて学ぶ。さらに、様々な機能を有する有機化合物を主に取り上げ、その構造、反応、多様性について学ぶ。		
授業計画	第1回	物質の構成要素と原子の構造	
	第2回	元素の周期律と物質量	
	第3回	化学結合	
	第4回	液体と溶液の濃度	
	第5回	気体	
	第6回	化学反応と化学平衡	
	第7回	化学熱力学	
	第8回	酸・塩基と中和	
	第9回	酸化還元反応	
	第10回	無機化学	
	第11回	有機化学	
	第12回	高分子化合物	
	第13回	高分子化合物演習	
	第14回	環境と化学	
	第15回	環境化学演習	
成績評価・方法	テスト40%、レポート40%、授業への参加度20%		
授業概要	自然科学の一分野である化学は日常生活に非常に関わりの深い学問である。ここでは、ミクロな世界からマクロな世界に至る物質の世界を軸に段階的に学習する。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「化学基礎」の教科書に目を通しておくこと。</li> <li>・物質を原子や分子レベルで理解できるようにしておくこと。</li> </ul>		
教科書	資料を適宜配布		
参考文献			
履修条件			
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
佐塚 正樹			
教養教育群	人間と自然		授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	<p>管理栄養士は人という「生物」を相手にしているので生物学の知識は必須である。そこで本講義では、高校時代、生物を選択しなかった学生でも理解でき、これから学ぶ栄養学の助けになるように細胞、組織、器官、器官系、個体の生物学および生理・生化学を中心に教授する。選択科目ではあるが、非常に重要な基礎科目なので高校時代、生物を選択したしなないに関わらず、全員の履修をお勧めしたい。</p> <p>到達目標は、以下の3つである。</p> <p>①生物が細胞を基本単位として生きていることを知っている。</p> <p>②生物は環境とのかかわりが深いことを理解している。</p> <p>③動物系生物はエネルギー物質と体構成物質を外部から取り入れる必要があるこれがヒトでは栄養学と関係していることを理化している。</p>
授業計画	<p>第1回 大学での学び 1年生の始めの講義でもあるので大学での学び方について述べたい。 特に教科書の使い方(解説)導入科学論と生物学について解説する。</p> <p>第2回 授業の進め方 前回の授業を受けて教科書と授業の進め方を解説して、自然科学Ⅱ(生物科学)の全体像を示す。 文献の利用方法についても解説する。</p> <p>第3回 生命の化学 生物学(栄養学)を学ぶ上で重要な化学のポイントを示す。</p> <p>第4回 細胞構造論とエネルギー論 教科書のⅠ細胞 p. 23～p. 69を読み解く上でのポイント部分を解説するとともに現代細胞論を展開する。</p> <p>第5回 遺伝子の構造と機能 教科書のⅡ遺伝子 p. 72～p. 110の部分について理解するためのポイントを示す。</p> <p>第6回 進化 進化とは実はすごい現象である。この魅力を伝えたい 教科書 p. 113～p. 137</p> <p>第7回 生物の多様性Ⅰ 生物に多様性を知っているかいないかで環境問題への考えが異なると言ってもよい。まずはこの重要性を述べたい 教科書p. 143～p. 180</p> <p>第8回 生物の多様性Ⅱ 生物の多様性が失われるとアツという間に絶滅が起きる。この怖さを知っておこう。教科書p. 143～p. 180</p> <p>第9回 生態Ⅰ 3回にわたって生態学を語りたい。非常に重要である。まずは全体像を示す。教科書p. 182～p. 221</p> <p>第10回 生態Ⅱ 生態系とは地球そのものの息遣いである。そのことを理解して欲しい。教科書p. 182～p. 221</p> <p>第11回 生態Ⅲ 生態学を理解すれば、これを応用することすらできる。テラホームは絵空事ではない。教科書p. 182～p. 221</p> <p>第12回 生態調節Ⅰ ヒトを含めて動物は多細胞生物である。まず概観する。教科書p. 223～p. 271</p> <p>第13回 生態調節Ⅱ この章以前の知識をつけてから生理学解剖学的なホメオスタシスが述べられているかもし、教科書をこれまで通読しているとわかってきたはずである。そろそろまとめていく。教科書p. 223～p. 271</p> <p>第14回 生態調節Ⅳ 系統だって個体はできている。もう一度確認して、今後の勉学につなげよう。教科書p. 223～p. 271</p> <p>第15回 総まとめ 講義又は演習形式にして、最後に生物学的な問題について議論してみよう。</p>
成績評価・方法	テスト80%，授業態度・レポート20%
授業概要	管理栄養士は内科医相当の生化学・生理学の知識が必要なので、生化学・生理学を理解するための基礎知識を本講義で教授する。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	本書の内容は栄養学を学ぶ上でも非常に有益なので講義期間中に通読することをお願いします。
教科書	教養の生物学 第2版 A. Houtman ほか著 岡良隆, 岡敦子訳 東京化学同人 3,300円 ISBN 9784807920457
参考文献	①Trudy McKee/James R. McKee(著)福岡伸一(翻訳)マッキー生化学 一分子から解き明かす生命―第6版 化学同人 ②河本宏著, マンガでわかる免疫学, オーム社

	③武村政春著, マンガでわかる生化学, オーム社 以上3冊は, すべて本学図書館電子書籍で閲覧可能
履修条件	
備考	食品学 I II や食品学実験と非常に密接にかかわるので本講義を受講することをお勧めします.

講義科目名称：自然科学演習（60640）

授業コード：60640

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	選択
担当教員			
大益 史弘			
教養教育群	人間と自然		授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	主に生物化学を背景とした演習によって自然現象を理解し、創造力を育成する。実際に我々の身の回りで日常的に起こっている自然現象を中心に引き上げ、それらの出来事を自然科学的に捉え、さらには説明することができることを目標とする。		
授業計画	第1回	物質の三態演習（液体）	
	第2回	物質の三態演習（固体）	
	第3回	物質の三態演習（気体）	
	第4回	軟水と硬水	
	第5回	カルシウムとマグネシウム	
	第6回	水質検査（硬度）	
	第7回	酸化還元反応演習（銅と銀）	
	第8回	酸化還元反応演習（鉄と銅）	
	第9回	酸化還元反応演習（化学電池）	
	第10回	高分子化合物演習（炭水化物）	
	第11回	高分子化合物演習（塩酸による糖化）	
	第12回	高分子化合物演習（アミラーゼ）	
	第13回	環境化学演習（空気）	
	第14回	環境化学演習（環境水）	
	第15回	環境化学演習（飲料水）	
成績評価・方法	レポート80%、授業への参加度20%		
授業概要	化学および生物学の内容をよく理解した上で、さらなる基本的知識と応用力を習得しながら、予測した結果を得て考察する自然科学を探求するためのプロセスの一部を経験する。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物質の生化学的な事象に関心を持つこと。</li> <li>・「化学基礎」の教科書や参考書等に目を通しておくこと。</li> <li>・授業で出てきた重要な物質について覚えるようにする。</li> </ul>		
教科書	資料を適宜配布		
参考文献			
履修条件			
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	選択
担当教員			
山田 忍			
教養教育群	人間と自然		授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	近年、国民の健康確保のための対策は、科学的根拠に基づき推進することがますます重要になっている。本講義においては、栄養学に関するデータの解析をする上で必要なデータ処理の基礎概念と統計データの解析方法を学ぶ。栄養学で実践できる統計的手法を身に着けることが目標である。		
授業計画	第1回	ガイダンス、統計的な考え方	
	第2回	データの種類のまとめ方（1）：データの種類と代表値	
	第3回	データの種類のまとめ方（2）：分散と標準偏差、変動係数	
	第4回	データの種類のまとめ方（3）：図と表の利用	
	第5回	データの種類のまとめ方（4）：代表的な確率分布	
	第6回	2種類のデータの関連性（1）：相関	
	第7回	2種類のデータの関連性（2）：回帰	
	第8回	まとめと応用（小テスト①）	
	第9回	確率論の基礎（1）：確率と確率分布	
	第10回	確率論の基礎（2）：一様分布と正規分布	
	第11回	検定の基礎（1）：推測と検定	
	第12回	検定の基礎（2）：t検定	
	第13回	検定の応用（1）：順序があるデータの検定	
	第14回	検定の応用（2）：分類されたデータの検定	
	第15回	まとめと応用（小テスト②）	
成績評価・方法	「小テスト①」（50%）および「小テスト②」（50%）、合計：100%で評価する。		
授業概要	各回の内容について、用語や計算方法を解説した上で、簡単な例題の計算や分析を行う。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	知識を定着するための復習に必要な時間を十分確保すること。		
教科書	資料を適宜配布する。		
参考文献	鳥居泰彦 『はじめての統計学』 日本経済新聞社		
履修条件			
備考			